



学校だより

福生一小ホームページ <https://fussa-1e.hs.fussa.school>

令和7年7月1日
7月号
福生市立福生第一小学校
統括校長 高瀬 智子



学びを大切に

統括校長 高瀬 智子

1学期も残すところあと1か月弱となりました。梅雨の時期ですが、雨が降っていないときは、休み時間、校庭で子どもたちが元気に体を思い切り動かして遊んでいます。子どもたちにとっては、外で遊ぶことは学校生活における楽しみであり、校庭で遊べるか判断が微妙な時に、校内放送で、校庭で遊べることを伝えると、大きな歓声が聞こえることがあります。何気ない日常の一コマですが、子どもたちの思いがあふれていて、微笑ましく感じます。

先月、6年生が6月4日から3日間、日光移動教室に行ってきました。3日間、天候にも恵まれ、さきたま古墳、日光東照宮、足尾銅山などの歴史的な建造物等の見学、ハイキング、キャンプファイヤー、日光彫体験などを行いました。今年は、華厳の滝も水量が多く、水の流れに圧倒された様子でした。

今年度は、グループでの活動を増やしましたが、互いに協力し合って行動し、充実した活動となり、楽しい思い出がたくさんできました。この3日間で大きく成長することができ、この経験をもとに最高学年としての意識を更に高め、これからの学校生活に生かしてほしいと思います。

さて、本校では、子どもたちの力を伸ばすため、授業改善として校内研究を行っています。今年度は、昨年度に引き続き国語科で研究を行っています。年間4回研究授業を行います。今年度最初の研究授業を6月18日に5年生で実施しました。すべての教員がその学級の授業を参観し、ねらいを達成するための手だてが効果的であったかどうかを見ていきました。

授業後は、その授業を振り返り、今後の指導にどのように生かしていくかを協議します。また、講師の方から、授業での子どもの様子から、手だて等について指導をいただき、より良い授業づくりに役立てていきます。実は、研究授業を行う上では、授業者の教員だけでなく、多くの教員が関わって、授業の計画を立てていきます。模擬授業を行い児童の反応を予測して、手だてを考えていくということもしています。

学校では、このように日常の授業に加えて、研究を通して授業改善を図っています。学校の働き方改革を行っていくことが言われている中、なぜ、このように研究を大切にし、行っていくのかというと、学校は子どもたちの力を伸ばしていくところであり、そのために教師も学び続けるということが大切だからです。

子どもたちにも、学ぶということは、自分自身の力を付けていくこと、自分の可能性を広げていくことであるということを感じてほしいと思います。時には、難しさを感じたり、続けることが大変だと感じたりすることがあると思いますが、学びは自分のためです。そこを、一歩進めて努力できるとよいです。また、難しいと思うときは、人に聞いてヒントを得るといいことがあります。

学校では、学びの充実のため、家庭学習も各学年に応じて行っています。家庭学習は、おうちの方の励ましや、終わったかどうかの確認が効果的であるとの調査結果もあります。お忙しいことと思いますが、御家庭での御協力をお願いいたします。



(6年：さきたま古墳)



(6年：宿舎での開校式)



(6年：華厳の滝)